

平成15年度血液製剤使用適正化普及事業結果について

－各都道府県における合同輸血療法委員会の現状に関する調査結果概要－

1 調査結果のポイント

平成15年度血液製剤使用適正化普及事業において、各都道府県における合同輸血療法委員会の現状に関する調査を行ったところ、18都府県において当該合同委員会を設置していた。参加病院における平成14年度（一部平成13年度データを含む）の主な回答結果は以下のとおり（詳細は別添参照）。

- (1) 各都府県における総使用量に占める参加病院全体の割合は、31.6～99%（平均73.5%）であり、秋田県（99%）、鳥取県（97.8%）、富山県（93.7%）、沖縄県（93.7%）、山梨県（93%）が高かった。
- (2) 輸血療法委員会の設置割合は、12～100%（平均68.9%）で、三重県（100%）、沖縄県（95%）、福岡県（92%）、山梨県（91.3%）が高かった。
- (3) 輸血部の設置割合は、12～100%（平均53.6%）であり、鳥取県（100%）、三重県（86%）、熊本県（80%）が高かった。
- (4) 輸血実施マニュアル作成割合は、29～100%、山梨県、三重県が100%であった。
- (5) 血液製剤の使用指針等の遵守に係る調査集計を行っていたのは8府県（秋田県、富山県、山梨県、大阪府、兵庫県、香川県、福岡県、沖縄県）であった。
- (6) 参加病院の廃棄された血液製剤量の集計を行っていたところは、9府県（青森県、秋田県、富山県、山梨県、三重県、大阪府、山口県、福岡県、沖縄県）であった。
- (7) 意見・要望等
 - 血液製剤使用の適正化については、今後も引き続き同様の会議を開催することが望まれることから、財政面での援助をお願いしたい。
 - 合同輸血療法委員会では、医療関係者が他病院の状況や血液センターからの最新情報を得ることを通して、自病院の問題点を確認できる。また、関係者がともに改善方法を検討することで全体のレベルアップが図れる。
 - 各都道府県の第一線の意見・要望事項を国においてとりまとめられ、全国にフィードバックして頂ければ、より効果的な役割を果たすものと考えられる。
 - 当県の大学の治療方針で血小板製剤の使用が多いと聞く。病院の輸血部や担当ではいかんとも難しく、学会等のレベルの討論事項ではないかと考える。
 - 大学（教育機関）で、むしろ積極的に議論されるべきである。血液製剤の適正使用対策について、内科学会や外科学会等、医療従事者が所属する学会の場でも適正使用を推進する必要があると思われる。
 - 病院の規模により管理体制に大きな違いがあり、規模の小さな病院では担当者の認識に大きく依存しており、管理者の認識を高める必要がある。
 - 適正使用に関し専門医のいる医療機関では、一定の管理レベルが保たれるが、多くの医療機関では医師の認識に大きく依存しており、医師への教育を行う必要がある。

2 今後の方向性

今回の調査で、合同輸血療法委員会を設置するなど適正使用の推進に向けて積極的な取組がなされている都府県が明らかとなった。また、本年7月に血液事業部会です承された「輸血医療の安全性確保のための総合対策」において、「都道府県や各血液センター等を通じて効果的かつ効率的な先進事例（輸血医療アドバイザー制度など）を収集し、全国の都道府県、血液センター、医療機関等関係機関に広く周知する」こととしていることから、これら都府県の取組を活用しながら、より一層の推進を図ってまいりたい。

各都道府県における合同輸血療法委員会の現状に関する調査

1. 都道府県	9. 輸血委員会の設置状況			10. 輸血委員会の設置状況の有無	11. 輸血療法マニュアル作成状況			12. 輸血療法マニュアル作成の有無	13. 輸血療法マニュアル作成の年数	14. 輸血療法マニュアル作成の回数	15. 輸血療法マニュアル作成の回数	16. 輸血療法マニュアル作成の回数	17. 輸血療法マニュアル作成の回数	18. 輸血療法マニュアル作成の回数	19. 輸血療法マニュアル作成の回数	20. 輸血療法マニュアル作成の回数	21. 輸血療法マニュアル作成の回数	22. 輸血療法マニュアル作成の回数	23. その他に計られた内容	24. 血液製剤の適正使用に関する取組状況				25. その他に計られた内容				26. 輸血委員会の設置の有無	27. 二重入賞		
	12年度	13年度	14年度		12年度	13年度	14年度													12年度	13年度	14年度	12年度	13年度	14年度	12年度	13年度			14年度	12年度
28 兵庫	42	39	33	×					×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	緊急輸血時の対応	○	○	不明	不明				○				
29 奈良																															
30 和歌山																															
31 鳥取	100	100	100	×					×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	改正薬法の説明、血液製剤の返品対応、照射血の取り扱い状況	○	○	不明	不明	血液製剤の返品、廃棄が減少				○			
32 島根																															
33 岡山				×					×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	輸血療法、血液使用、輸血管理体制等の適正化に関する研修	○	○	不明	不明					○			
34 広島																															
35 山口	18.7	17	12	○	63.3	71.7	78	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	輸血療法マニュアルについて	×	○	○	○						○		
36 徳島																															
37 香川			20	×			29	×	×	○	○	○	○	×	×	○	○	×		不明	○	不明	不明						×		
38 愛媛																															
39 高知				×			×	×	×	×	×	×	○	×	○	○	×	×		不明	不明	不明	不明						○		
40 福岡	41	78	13	×			×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	I&A、レポート審査状況	○	○	○	×						○		
41 佐賀																															
42 長崎																															
43 熊本	80	80	80	×	80	80	80	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	○												×	
44 大分																															
45 宮崎																															
46 鹿児島																															
47 沖縄	72.7	72.7	72.7	○		77.3		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○													
合計	-	-	-	4	353	429	418	4	4	11	8	11	13	9	9	10	11	8		11	11	4	6					16	-		

※合計欄に計られた内容の欄に「不明」とあるのは、調査対象の都道府県に該当する内容が不明なためです。

各都道府県における合同輸血療法委員会の現状に関する調査

調査番号

H1603

I. 調査回答者

1. 都道府県名および担当者

都道府県名
記載者名

所属
職名

II. 会議開催の有無

2. 都道府県単位の合同輸血療法委員会またはこれに相当する病院輸血業務の担当者による合同会議等が実施されていますか？

(1. 実施している 2. いいえ)

回答2

質問2で「1. 実施している」と回答された場合は以下の質問にお答えください。

「2. いいえ」と回答された場合でも記入可能な項目があれば記入してください。

III. 会議等参加病院参加者について

3. 会議等の開催は平成何年度から行われていますか？

回答3

年度

4. 参加病院数について病床数ごとに記入ください。

病院病床数	平成12年度	平成13年度	平成14年度
100床以下			
100～200床			
200～300床			
300～500床			
500～1000床			
1000床以上			
合計			

5. 参加病院全体で年間に使用されている輸血製剤は毎年度の都道府県内の総使用量の何%に相当しますか？

	平成12年度	平成13年度	平成14年度
使用量割合(%)			

6. 会議の総参加人数および職種別人数についてお答えください。

職種	平成12年度	平成13年度	平成14年度
医師			
薬剤師			
検査技師			
看護師			
日赤関係者			
その他			
総人数(合計)			

血液参加病院の調査集計について

(1) 輸血部門管理体制

7. 会議では参加病院の輸血部門の管理体制について調査集計を行っていますか？

(1. 集計している 2. いいえ) 回答7

8. 参加病院での輸血療法委員会の設置割合をお答えください。

	平成12年度	平成13年度	平成14年度
設置割合(%)			

9. 参加病院での輸血部(輸血について一元管理している部門を含む)の設置割合をお答えください。

	平成12年度	平成13年度	平成14年度
設置割合(%)			

(2) 血液製剤による副作用対策

10. 参加病院の輸血事故防止対策について調査集計を行っていますか？

(1. 集計している 2. いいえ 3. 不明) 回答10

11. 輸血事故防止のための「輸血実施手順書(マニュアル)」の作成割合についてお答えください。

	平成12年度	平成13年度	平成14年度
作成割合(%)			

12. 輸血療法に伴う、事故やインシデント(事故には至らなかったが、ヒヤリとしたりハツとした事例)の報告体制について調査集計を行っていますか？

(1. 集計している 2. いいえ) 回答12

13. 血液製剤による副作用(輸血感染症を含む)の報告体制について調査集計を行っていますか？

(1. 集計している 2. いいえ) 回答13

(3) 血液製剤の適正使用について

14. 参加病院の血液製剤の適正使用の取り組みについて調査集計を行っていますか？

(1. 集計している 2. いいえ) 回答14

15. 「血液製剤の使用指針・輸血療法の指針」の遵守体制について調査集計を行っていますか？

(1. 集計している 2. いいえ) 回答15

16. 参加病院の自己血輸血の実施体制について調査集計を行っていますか？

(1. 集計している 2. いいえ) 回答16

(4)血液製剤の使用状況について

17. 会議では各参加病院の輸血製剤の使用量の集計が行われていますか？

(1. 集計している 2. いいえ) 回答17

18. 各参加病院の廃棄された血液製剤量の集計が行われていますか？

(1. 集計している 2. いいえ) 回答18

19. 会議では各参加病院の自己血輸血量の集計が行われていますか？

(1. 集計している 2. いいえ) 回答19

IV 会議での検討・討議内容について

20. 会議では輸血療法の適正化について検討が行われていますか？

(1. はい 2. いいえ) 回答20

21. 輸血事故防止対策について検討を行っていますか？

(1. はい 2. いいえ) 回答21

22. 血液製剤による副作用(輸血感染症を含む)の報告体制について検討を行っていますか？

(1. はい 2. いいえ) 回答22

23. その他に討議された内容があればご記入ください。

回答23

V 会議の開催効果について

24. 会議の開催により参加病院において改善された項目をお答えください。

(1. 改善した 2. なし 3. 不明)

項目	改善の有無
輸血部門管理体制	<input type="checkbox"/>
輸血療法の適正化	<input type="checkbox"/>
輸血事故防止対策	<input type="checkbox"/>
輸血副作用報告体制	<input type="checkbox"/>

25. その他改善された内容があればご記入ください。

回答25

VI 会議の議事録・資料の保存について

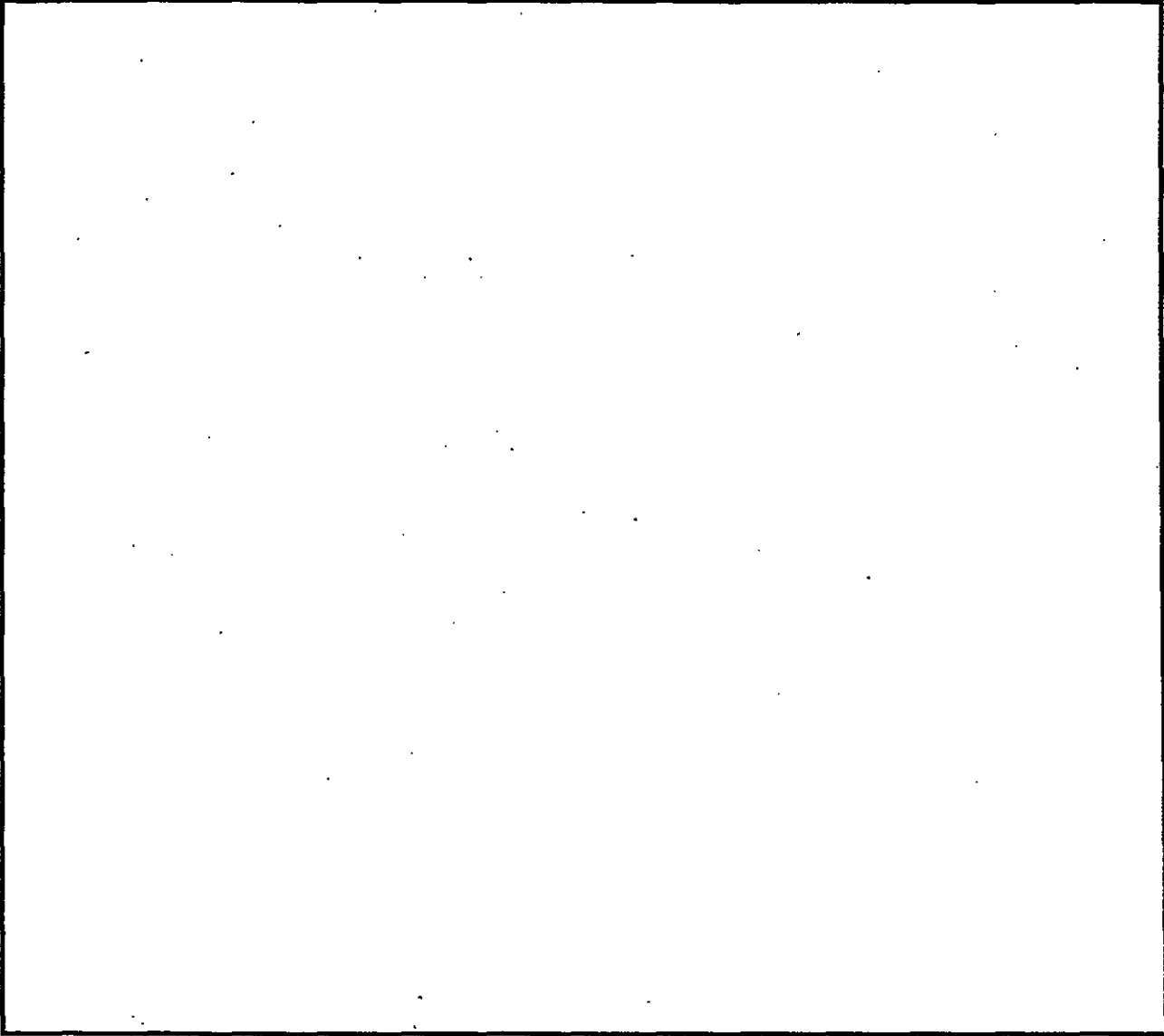
26. 会議の議事録・配布資料が保存されていますか？

(1. はい 2. いいえ) 回答26

質問26の「はい」と回答された場合は、差し支えなければ保存されている議事録・配布資料の提出をお願いします。

Ⅵ その他

27. 合同輸血療法委員会の意義・血液製剤の適正使用対策などについて、ご意見やご要望がありましたらご記入ください。



ご協力ありがとうございました